

自然でナチュラルなお家が建てれそうだと感じ、
信頼できるスタッフに安心して任せられた。



Come Home Story

ご入居後の
お宅訪問
No.027
カムホームストーリー
高知市
3年3カ月後のKさん家
設計担当:岡本 理絵



「安心して帰って来られる実家をつくってあげたかった」

2人の息子さんと、お嬢さんの健やかな成長が楽しみなKさまご夫妻。それぞれが就職し、結婚してから、安心して帰って来られるホッとするような実家をつくってあげたいと考えました。何度か住宅展示場を訪れましたが、「どの家も魅力を感じなくて全然ほいと思わなかった」と奥さま。以前から「かわいい」と気になっていたタイセイホームの新聞広告k+で、あるお家の広告に惹かれ訪れた見学会。あったかい無垢の床や塗り壁で、自然でナチュラルなお家が建てれそうだと感じ、「ここで建てるしかない」と直感しました。まだ建てる気じゃなかったという旦那さまに奥さまは、自ら目ぼしい土地を見つけてきて報告。「ここえいね」と旦那さまとご両親とも意見が一致しました。そのタイミングよく入った岡村(お客さまサポーター)からの土地情報メールに、偶然自分たちが気に入った土地が入っていたことを機に、本格的に家づくりの勉強をスタート。「家だけじゃなくいろんな細かい金額も見てくれて、普通あとからかかるようなお金が何もなかった」と、信頼できるスタッフに安心して任せられたと言うKさまご夫妻です。



「見学会で見たお家をたくさん参考にしました」

「これは住んでみると分かんね」と話す旦那さまは、日常に欠かせない携帯を「充電しながら使えるように、座るあたりにコンセントがあったら」と振り返ります。家事室の小さなFIX窓は、「見学会のお家で見て」と、現場で大工さんに相談して快く変更を対応してもらったと言います。階段へつづく廊下の途中にあるため、子どもたちの行き来が見え、「作業をしても家族を感じられるように」という一工夫です。パントリーとしての役割も「棚はできるだけとったほうがいい」という岡本(設計コーディネーター)からのアドバイスで「野菜やお漬物や大きなお鍋もしっかり取まる」と、使い勝手のいい空間となりました。奥さまが一番好きだと言うキッチンもまた、「料理とか洗いの音が気になるだろうから」と見学会で見たお家を参考に、テレビのあるリビングとの間にR開口ニッチをつくりました。音を遮りつつ様子を伺え、一人きりにならない家族がうれしいキッチンです。



「ふつう、そんな工務店はない」

「それはいかん」と、打合せで予算をオーバーしそうな時、「何度も岡本さんに止められた(笑)」と奥さま。「利益になるところだから普通は勧めるのに、そんな工務店はない」と、打合せの度に信頼度アップ。外構は費用を削り、柵やウッドデッキは旦那さまが担当。「もともと好きで」という奥さまは植物を担当しました。屋根つきのウッドデッキでは、子どもたちが机を出して勉強したり、お友達を呼んだ時の遊び場として大活躍しています。「たまにメジロがきた時はみんなで眺めるんです」と、突然のお客さまが素敵な時間を運んでくれることも。子どもたちは今までやることなかった水やりを今ではすすんで手伝ってくれるようになりました。家を建てたことで「家族時間が増えた」と言う奥さま。一、二階をグリーンとアイボリーで塗り分けたトイレは、建築中、塗り材を購入して左官職人に教わりながらご夫婦の共同作業で仕上げたという思い入れの深い場所。「塗り忘れもあったよね」と顔を見合わせ笑顔になるお二人です。奥さまは「やりたいことをつみこみすぎて、なくても良かったと後悔するより、自分たちでできることもある」とアドバイス。予算を削ることで諦めたことも、「岡本さんの言うことを聞いてよって良かったね、やっぱりプロ、安心して任せられた」と、旦那さまも大満足の家づくりとなりました。

